

県民交流広場 全県オフィシャルホームページ 掲載記事

掲載コンテンツ：リレーコラム

掲載時期 平成 24 年 1 月

テーマ 地域住民はもちろんのこと、他地域の方々とも幅広く交流
……山あいの里に行列のできるそば屋さん……

寄稿者 淡路市生田地区 生田地域活性協議会

生田地区は 1 7 5 世帯、人口 4 0 0 人余り、山あいの 3 つの小さな集落で構成される地域で、近年の少子高齢化と若者の流出で 6 5 歳以上の高齢者が約 4 0 % を占めるようになりました。

過疎化が進むなかで地域の活性化をはかる機運も高まり、3 つの地域で導入された国の農地水環境向上対策を活用したそば栽培を通じて「そば花まつり」のイベントが取り組まれるようになりました。

これらの活動や、かつて地域に多数あった水車の復元を求める声などを通じて「生田地域活性協議会」が結成され、地域資源であるそばの各種イベントでの販売がはじめられました。

しかし、利用しやすい拠点施設がないために、水車復元と合わせた「そば屋」建設などが真剣に話し合われてきました。

ちょうどこのころ、子どもの減少から生田小学校と生田保育所の統廃合が行われ、保育所跡を活用した県民交流広場事業を活用することを決め、平成 2 3 年 3 月に整備工事を完成させ、4 月 9 日に「生田村交流ひろば」をオープンしました。

交流ひろばは、地域の伝統芸能である生田五尺節の保存伝承活動やそば打ち教室、自然環境学習、カルチャースクールやふれあい喫茶として利用され、2 階建で使いにくかった生田集会所とは違い平屋建の交流ひろばは高齢者にも好評で多くの地域住民が集まります。

また、ふれあい喫茶と兼用で地域資源のそばを手打ちで提供する「そばカフェ生田村」を併設し、「挽きたて」「打ちたて」「湯がきたて」のそばは風味がよいと大好評です。

「そばカフェ生田村」は土日祝日の営業で、営業日と毎週水曜日のふれあい喫茶と合わせてオープン以来半年間で約 8 0 0 0 人の地域住民や阪神間を含めた多くの方々にお越しいただき交流を深めています。

今や淡路島の人気スポットの一つになりつつありますが、これらは本四道路北淡インターから 1 0 分の距離と、そばの風味の良さが口コミで広がっていることにあると思います。

生田地区では、ひろばを整備することが最終の目標ではなく、過疎化から脱却するために地域活性化をめざす一段階として位置付けています。

活性化に向けて一番最初に声が出された水車復元も3月末の完成をめざして準備が進められていますし、遅くとも来春には水車周辺に新しい「カフェ」も建設する予定です。

この「カフェ」は、地域の若い人たちによって運営される予定であり、現在、神戸親和女子大学の学生の皆さんにも加わっていただき、具体的な整備や運営について地域の若い女性たちの話し合いも昨春から継続して行われています。

今後は「そばカフェ生田村」新たな「カフェ」などの地域ビジネスの定着で、いっそうの地域活性化や交流ひろばの運営を将来的にも継続することに努めなければならないと考えています。